

今週のビルマのニュース 2009年1月23日号【0903号】

今週の主なニュース：ロヒンギャ難民問題ほか

・ビルマから船で逃れてきたロヒンギャ民族数百人をタイ当局が洋上に放置などしたとされる問題で、タイのアピシット首相は21日、国際機関と協力すると述べた。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）はタイが拘束している難民と会う許可を求めており回答を待っているが、首相は許可を出すかどうかには言及しなかった（22日付APほか）。

・14万人が犠牲になったサイクロン襲来から8か月がたった。国連のミャンマー常駐調整官は、被災地域が完全に回復するには「資金状況によっては3、4年かかるだろう」と述べた（16日付IRIN）。

・EUは今年ビルマに向けて約5240万ドルの人道援助を出すことを決めた。半分以上がサイクロン被災地域の住民に、残りはタイのキャンプに住むビルマ難民やアラカン州北部に住むロヒンギャ民族などに向けられる（21日付イラワディ誌）。

・ブッシュ前米大統領は退任を数日後に控えた15日、ビルマに対する制裁の一部を取り消した。制裁では軍政に資金提供を行う個人や企業の資産が凍結されることになっていたが、今回の取り消し措置により、米財務省が指名しない個人や法人については資産が凍結されないことになった。なぜこのような措置を取ったのかは不明。米議会のパーマン下院議員（外交委員会委員長）は取消措置を非難した（17日付ワシントン・インディペンデント）。

・米国務副長官候補のジェームズ・スタインバーグ氏は、北朝鮮とビルマの関係について米議会上院外交委員会からの質問に答え、「北朝鮮の協力によってビルマで核開発事業が始まることがあれば非常な懸念事項となるだろう」と述べた。

・19日、アウンサンスーチー氏が「良心のトランプット」賞を受賞した。同賞は故マーティン・ルーサー・キング牧師の息子が設立した団体が毎年キング牧師の生誕記念日に授与するもの。アウンサンスーチー氏の代理として米国ビルマ・キャンペーンの事務局長で元政治囚のアウンディン氏が受け取った。

ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など

〔日メコン交流年2009イベントカレンダーより〕
1月11～24日 ジェトロヤンゴン主催
ミャンマー縫製産業生産管理技術人材育成支援事業

イベントなど

・在日ビルマ人共同行動実行委員会アクション - 国連事務総長に対し、一刻も早くビルマを訪問し、スーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を軍政に働きかけるよう要請するアピール行動（国連大学前、19～23日 15～16時）

・SEEDS Asia モルディブ・ミャンマー活動報告会～沿岸侵食・サイクロン被害からコミュニティを守る（西宮市国際交流協会、29日 18時半）*要申込

・難民の認定をしない処分取消等請求事件 ロヒンギャ難民（複数）（大阪地裁1007号法廷、2月4日 13時15分～）

・難民の第三国定住に関するシンポジウム 外務省主催（三田共用会議所、2月5日 13時半）*要申込

・ミャンマーの伝統系あやつり「ヨウッター・ポエー」～シリーズアジアの人形芝居 part14～王族から庶民にまで広く愛されたミャンマーの華麗なる伝統芸能 7年ぶりの来日公演 現代人形劇センター主催（ラゾーナ川崎プラザソル 2月7日 15時、18時半。カスケードホールいきいきプラザ一番町 B1階 2月10日 15時、19時。レクチャーデモンストラーション 東京ミッドタウン富士ゼロックス 501会議室、2月11日 14時、16時）*チケット発売中

・ビルマ市民フォーラム例会 外国人労働者は今... 在日ビルマ人・外国人労働者のおかれている状況について（池袋・ECOとしま8階、2月21日18時～）

春秋社より新刊のお知らせ～アラン・クレメンツ著「ダルマ・ライフ - 日々の生活に"自由"を見つける方法」。著者はビルマで得度して僧になった初めての米国人。国際的な注目を集めるビルマの状況に対して、新たな角度から光をあてる一冊。四六判 / 372頁 / 定価（本体2500円 + 税）

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）
<http://d.hatena.ne.jp/burmainfo>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ
ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165